

みんなでやらいや！

～まちづくり活動報告～(第37回)

まちづくり光徳地区会議

山林資源を活用 「光徳薪プロジェクト」始動



高齢化が進み、山を所有されているみなさんから、山林の維持管理について苦勞の声をよく聞きます。

その一方で、エコロジーに関心を持ち、冬の暖房の手段に薪ストーブを選ぶ方や愛好者は増加しており、森林資源が見直されつつあります。

まちづくり光徳地区会議では「山の維持管理に課題を感じている人」と「薪を求める人」を結び付ければ、山林資源活用につなげることができるのでは、と考え、山林資源活用につながる取り組みのひとつとして3月1日(日)に薪割り体験イ

ベントを実施しました。

当日は雨模様のため、参加者が少なく残念でしたが、薪割り初体験の方も、経験者に教わりながら薪割り作業に汗を流しました。

参加者からは「うちの山にも間伐を予定している山林がある」「この薪で料理イベントをしてみたい」などの声も聞こえました。

まちづくり光徳地区会議では、こうした地域の課題解決や交流の活性化について検討を続けます。

今後も取り組みをすすめていきますので、皆さまのご協力をお願いします。

支え合いのまち御来屋

御来屋地区防災訓練を実施

支え合いのまち御来屋、御来屋地区区長会、鳥取大学が連携し、3月8日(日)に保健福祉センターなわで、御来屋地区防災訓練を行いました。

当日は、約150人の参加者が集まり、避難所運営ゲームHUG体験や、各種災害パネルの展示、津波模型、防災グッズの作成、AED講習、炊き出し訓練などのコーナーを設けて実施しました。

防災グッズの作成では物資が届かないという状況を想定し、段ボールで仕切りをした避難所を設営したり、新聞紙でスリッパを作ったりしました。

展示コーナーでは、各自治会で配布している防災用品や、御来屋10区の防災倉庫に備えている物品を展示しました。

また、大山消防署の協力で、消火器体験やAED講習も行いました。

防災訓練の終わりには、炊き出し訓練で作ったおにぎりとお味噌汁をおいしくいただきました。

訓練実施は3年目。参加地区も増え、防災について考えていただく良い機会になりました。

HUG体験

(Hinanjyo: 避難所、Unei: 運営、Game: ゲーム)の略で、避難所の運営をしなければならない立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対応すればよいのかを体験するもの。

避難者の年齢や性別、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくのかを模擬体験する。



▲新聞を利用してスリッパ作りを体験

今後も、支え合いのまち御来屋では、安全安心なまちづくりを推進するため、自主防災組織と連携し、防災意識の高揚を図るための取り組みを実施していきます。